震災から学び、復興に向けて

函館市医師会　会長
函館新都市病院　理事長
伊　藤　丈　雄

このたびの東日本大震災において、亡くなられた皆様に深い哀悼の意を表します。被災された皆様へ心よりお見舞い申し上げますとともに、被災地の一日も早い復興をお祈り申し上げます。

国難と呼べる今回の大震災は私達の予想をはるかに超える甚大な被害を残し、今もなお余震の恐怖に怯える毎日であります。そんな中、日本国内から消防・自衛隊・医師会などの災害救助チームがいくつも結成され、被災された皆様の救助・救援に向かったことは皆さんも報道などでご存じのことと思います。また世界各国から義援金・物資・救援のマンパワーなどもありました。わが国日本は支えられ愛されている国だと確信しました。

私達は一人では何もできません。しかし一人で立ち向かうのではなく、チームで行動することの意味と助け合い支えあうことの大切さを今回の震災から学んだように思います。コミュニケーション不足・人とのつながりが希薄になっているこの時代ですが、「人とのかかわり」が重要であると思います。

「災害は忘れたころにやってくる」と昔から言われておりましたが、文化（時代）がどんなに進んでも災害には勝てず、これほどまで近代化した社会でもライフラインの寸断から復旧までの時間を要したり、携帯電話が使えない等たくさんの問題が生じました。医療現場は混乱の中、最低限度の医療提供しかできず、現場の医師をはじめとする医療関係者の大変さは計り知れないものだったと思います。

通信機能が絶たれてしまったため、情報が錯綜し必要な情報が正確に伝わらない等の問題も露呈し、現場スタッフは医療提供以外のところでも苦慮したことと思います。さまざまなネットワークを利用し、孤立した医療現場の状況を伝えた医師・看護師もあり、被災地の悲惨な状況を思い知りました。災害時における正確な情報伝達経路の確立について、今一度検討すべきだと思いました。まだまだ多くの問題がありますが、今回の震災を機に一つ一つ対処していきたいと思います。

当函館においては、全国的な自粛ムードから観光客が激減し、ますます不況感が増しているように思われます。この時だからこそ私達は従来どおりの生活をし、地域産業を停滞させないように消費と生産活動を行っていくことが大事だと思います。過度な自粛は消費低迷や企業倒産等の二次被害につながり、かえって復興の妨げになります。経済を回すことで長期にわたる復興支援になると考えます。

最後になりましたが、被災地の復興に携わっている多くの皆様に感謝とお礼を申し上げます。国を挙げて支援できるよう、医師会として今後も協力して参ります。

被災地医師会との連携を

富良野医師会　理事
上富良野町立病院　院長
白　田　克　美

このたびの震災で亡くなられた方にお悔やみを申し上げるとともに、被災された方に、心からお見舞い申し上げます。

被災から１ヵ月以上たちましたが、今なお混乱が続いており、現場で仕事しているボランティア、医療関係の方には心より敬意を表します。

当地、上富良野町からも多数の自衛隊の方が援助に出ており、家族である当院職員は、いつ帰るか分からないという不安だけでなく、余震や放射能の問題もあり、心配する日が続いているようです。

当院には、現在までに医療関係者等の派遣、ベッドの確保の要請がきていますが、病院はギリギリの状況のため、積極的にできることがありません。被災地の病院はもとより、全国どこの病院も、新医師臨床研修制度の影響から医師不足にあり、よほど大きな病院でない限り人的な余裕がないと思われます。

被災地の詳しい状況はインターネットで知るしかありませんが、もともとの医師不足にくわえてこの震災のため、これからも長期にわたる医療支援が必要のようです。

現在は、情報が少なすぎます。北海道医師会としては、今どの地区に何が必要なのか、一部の県のいくつかの医師会に限定してでもしっかりと情報を集め、医師会どうしの連携を強めて長期に支援を継続できる体制を作ることだと思います。

また、採算性だけを考え現在の医療状況を作った国に対しても、これを機会に改善を訴えていく必要があるかと思います。